

日本気象学会 2017 年度春季大会 出展・リクルートブース開設・協賛・協力企業・団体等一覧

今大会の開催に当り，以下の企業・団体からご出展・リクルートブースご開設・ご協賛・ご協力を頂きました（2017年3月15日現在；50音順）。厚く御礼申し上げます。

< 出展・リクルートブース開設・協賛・協力 >

株式会社アイ・アール・システム*
 株式会社朝倉書店
 株式会社ウェザーニューズ+
 英弘精機株式会社*
 オフィス気象キャスター株式会社+
 気象工学研究所+
 サイバネットシステム株式会社*
 JAXA 第一宇宙技術部門 地球観測研究センター(EORC)*
 株式会社島津製作所
 全日本空輸株式会社
 ダイヤモンドエアサービス株式会社
 DKSH ジャパン株式会社*
 東京ダイレック株式会社*
 一般財団法人東京大学出版会*
 トーテックス株式会社
 日本気象株式会社+
 一般財団法人日本気象協会*+
 株式会社日立パワーソリューションズ*
 株式会社ブリード*
 三菱電機株式会社*
 (五十音順)

*はポスター会場内に併設されるブースにて展示を行う予定の企業・団体です。

+はポスター会場内に併設されるリクルートブースを設ける予定の企業・団体です。

日本気象学会 2017 年度春季大会

会期：2017年5月25日（木）～28日（日）

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木神園町3-1）
（<http://nyc.niye.go.jp/>）

大会実行委員会担当機関：東京大学先端科学技術研究センター，東京大学大学院理学系研究科，
国立極地研究所，首都大学東京

大会委員長：中村 尚（東京大学先端科学技術研究センター）

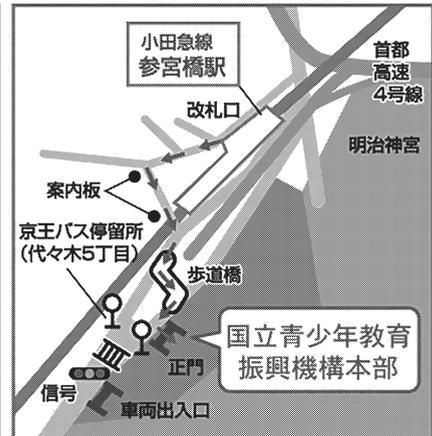
当日の会場への連絡先：大会実行委員会事務局
（国立オリンピック記念青少年総合センター405 会議室（センター棟 4F））
TEL 090-1833-8948（大会期間中のみ有効）
※大会参加者への伝言は，受付付近の掲示板に掲示します。
取り次ぎはいたしませんのでご承知をお願いします。

会場案内図



国立オリンピック記念青少年総合センターホームページより

参宮橋からの[歩道橋]を使った経路



参宮橋からの[横断歩道]を使った経路



交通の案内

- 小田急線：
 - 新宿駅から各駅停車 約3分
 - 「参宮橋」駅下車 徒歩 約7分
- 地下鉄千代田線：
 - 「代々木公園」駅下車 徒歩 約10分
- 京王バス：
 - 新宿駅西口16番より 「代々木5丁目」下車
 - 渋谷駅西口40番より 「代々木5丁目」下車

大会行事予定

A会場	: セミナーホール 417 (センター棟 4F)	総会・記念講演・シンポジウム	: 大ホール (カルチャー棟)
B会場	: 309 会議室 (センター棟 3F)	受付	: 416 会議室 (センター棟 4F)
C会場	: 310 会議室 (センター棟 3F)	大会事務局	: 405 会議室 (センター棟 4F)
D会場	: 311 会議室 (センター棟 3F)	懇親会	: レセプションホール (国際交流棟)
ポスター会場	: 401・402・403・409 会議室 (センター棟 4F)		
	(企業展示会場・リクルートブース併設)		

		A 会場	B 会場	C 会場	D 会場
5月 25 日 (木)	10:00～ 11:30	中高緯度大気 (5, A101～A105)	観測手法 I (7, B101～B107)	専門分科会 「気象庁データを利用 した気象研究の現状と 展望」 (7, C101～C107)	専門分科会 「気候変動影響への適 応技術とその社会実装」 (5, D101～D105)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (30, P101～P130)			
	13:30～ 17:00	熱帯大気・台風 (14, A151～A164)	観測手法 II (6, B151～B156) 大気力学 (9, B157～B165)	データ同化 (16, C151～C166)	専門分科会 「異常気象のメカニ ズムと要因分析」 (13, D151～D163)
5月 26 日 (金)	09:30～ 11:30	気候システム I (9, A201～A209)	降水システム I (9, B201～B209)	気象予報 (7, C201～C207)	物質循環 (9, D201～D209)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (34, P201～P234)			
	13:30～ 15:20	総会			
	15:30～ 17:40	学会賞、藤原賞、岸保・立平賞、山本賞受賞記念講演			
	18:15～ 20:15	懇親会			
5月 27 日 (土)	09:30～ 11:30	気候システム II (9, A301～A309)	降水システム II (8, B301～B308)	環境気象・大気境界層 (9, C301～C309)	大気放射 (9, D301～D309)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (33, P301～P333)			
	13:30～ 17:00	シンポジウム「最新の気象学が描き出す多彩な大気海洋結合現象」			
5月 28 日 (日)	09:30～ 11:30	気候システム III (5, A401～A405) 気象教育 (4, A406～A409)	降水システム III (9, B401～B409)	専門分科会 「福島第一原子力発電 所からの放射性物質の 拡散の実態と影響―事 故後 6 年を経過して―」 (9, C401～C409)	専門分科会 「新世代静止気象衛星 ひまわり 8 号がもたら す新しい気象学」 (9, D401～D409)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション ジュニアセッション (4, P401～P404) (10:30～12:30)			
	13:30～ 17:00	公開気象講演会 「「大雨災害」に備える」	中層大気 (13, B451～B463)	専門分科会 「2015 年と 2016 年の 台風」 (12, C451～C462)	専門分科会 「偏波レーダーを用い た観測解析技術と利用 法の展開」 (17, D451～D467)

発表件数：330 件（専門分科会 72，口頭発表 157，ポスター101）

当大会予稿集に掲載された著作物については、以下の規程「日本気象学会の刊行物に掲載された著作物の利用について (http://www.metsoc.jp/teikan/MSJ_kitei_copyrightpolicy.pdf)」に準じます。

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは、〒305-0052 茨城県つくば市長峰 1-1 気象研究所予報研究部内 講演企画委員会 (E-mail: kouenkikaku2017s@mri-jma.go.jp) まで。

講演の方法

一般口頭発表・専門分科会

- ・ 一般口頭発表の講演 1 件あたりの持ち時間は 12 分 (講演 10 分・質疑 2 分) です。
- ・ 専門分科会の発表時間についてはコンピーナーからの指示に従ってください。
- ・ 講演には PC プロジェクターを使用できます。
- ・ 講演にあたり、予め以下の点をご了承ください。
 - ✓ パソコンは各自で準備して下さい。会場にはプロジェクター、VGA ケーブル及び HDMI-VGA 変換アダプタを準備します。VGA (ミニ D-sub15 ピン)、あるいは HDMI (フルサイズ) コネクタを装備した PC が使用できます。
 - ✓ セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。また接続が不安な場合は、セッション開始前に会場係に申し出て下さい。
 - ✓ 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をすること

があります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようにお願いします。

ポスター発表

- ・ 講演者はポスターに表題と著者名を明記して下さい。
- ・ ポスター発表の一人当たり使用可能面積は、縦 150cm × 横 180cm となっています。
- ・ ポスターを掲示する際には画鋸をお使い下さい。画鋸は各自でご用意下さい。なお、テープは使用することができません。
- ・ ポスターの掲示可能時間は、大会第 1～3 日目は 09:00～19:00、大会第 4 日目は 09:00～13:00 です。会場の都合上、特に撤収は毎日時間厳守でお願いします。
- ・ ポスター会場での機器の使用は、講演申し込み時に予め申し出ていたもの以外は原則として認められません。
- ・ ポスター会場では電源は使用できません。

シンポジウム「最新の気象学が描き出す多彩な大気海洋結合現象」

※シンポジウムには一般の方もご参加いただけます。ただし春季大会参加登録をされていない方は、参加登録ページ(<http://www.metsoc.jp/?p=5906>)での事前登録(無料)が必要です。

日時：大会第 3 日 (5 月 27 日) 13:30～17:00

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール (カルチャー棟)

司会：松本 淳 (首都大学東京 地理学教室)

趣旨：

海洋は地表面のおよそ 7 割を占め、海面水温と海氷分布は、より速く移ろいゆく大気にとっての下方境界条件となる。その一方で、大気は風応力や海面熱・水・放射フラックスを介して海洋や海氷に熱的・力学的強制をもたらす。この大気-海洋間の双方向の影響の揺らぎに伴って大気海洋結合変動が起こる。2014 年夏に始まったエルニーニョ現象は、各国の予報機関による大方の予測に反して弱いまま推移したのち、翌 2015 年になって観測史上 3 番目の強さにまで発達し、遠隔影響を介して世界各地に異常気象を引き起こした。このように熱帯大気海洋結合変動が中高緯度の気候に影響する一方で、これまでの研究では、中緯度海洋はこれに受動的に応答するだけとされていた。しかし最新の研究により、中緯度の海洋変動が能動的に大気変動を駆動する例も見い出されている。他方、北極域の海氷変動は大気に熱的に影響し、中高緯度帯に異常気象をもたらす可能性が指摘され、活発な研究がなされている。2017 年は、このような海洋や海氷と大気との相互作用の理解に挑む 2 つの国際キャンペーン -- 海大陸研究強化年 (YMC) と極域予測年 (YOPP) -- の開始年に当たる。

大気海洋系の相互作用に対する研究への機運がこのように国際的な高まりを見せる中、本シンポジウムでは多彩な大気海洋結合現象を最新の研究成果を交えて概観し、さらなる研究への取り組みを展望する機会としたい。講演は熱帯から極域に渡る多様な大気海洋結合現象を包括するよう企図した。このシンポジウムが大気海洋相互作用研究の意義と魅力を幅広い方々に知っていただく機会となれば幸いである。

プログラム：

- 1) 「ENSO の監視と予測」
安田 珠幾 (気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課)
- 2) 「YMC: 海大陸域における大気-海洋-陸面相互作用研究」
米山 邦夫 (海洋研究開発機構 大気海洋相互作用研究分野)
- 3) 「熱帯大気海洋結合変動がもたらす東アジアへの遠隔影響」

- 小坂 優 (東京大学 先端科学技術研究センター)
- 4) 「気候系の Hotspot: 中緯度の暖流や水温前線が及ぼす気候系への影響」
中村 尚 (東京大学 先端科学技術研究センター)
- 5) 「YOPP: 北極観測と予測可能性研究の融合」
猪上 淳 (国立極地研究所 国際北極環境研究センター)
- 6) 「総合討論」
司会: 松本 淳 (首都大学東京 地理学教室)

※各講演時間は質疑応答を含めて 30 分です。

問い合わせ先: 小坂 優 (東京大学先端科学技術研究センター)

TEL: 03-5452-5144

E-mail: symposium2017s@metsoc.jp

総 会

日時: 大会第 2 日 (5 月 26 日) 13:30~15:20

会場: 国立オリンピック記念青少年総合センター

議事次第

- | | |
|---------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 開会 | (3) 2016 年度監査報告 |
| 2. 議長選出 | 9. 報告 |
| 3. 理事長挨拶 | (1) 2017 年度事業計画 |
| 4. 2017 年度日本気象学会賞授与 | (2) 2017 年度収支予算 |
| 5. 2017 年度藤原賞授与 | (3) 2015 年度決算報告 (正味財産増減計算書) の
修正 |
| 6. 2017 年度岸保・立平賞授与 | (4) その他 |
| 7. 2016 年気象集誌論文賞及び SOLA 論文賞授与報告 | 10. 議事録署名人の指名 |
| 8. 議事 | 11. 議長解任 |
| (1) 2016 年度事業報告 | 12. 閉会 |
| (2) 2016 年度決算報告 | |

専門分科会の概要紹介

2017 年度春季大会では下記の通り、7 件の専門分科会が開かれます。

気象庁データを利用した気象研究の現状と展望

日時: 大会第 1 日 (5 月 25 日) 10:00~11:30

場所: C 会場

趣旨: 気象庁と気象学会との包括的共同研究契約である「気象研究コンソーシアム」が締結されて 9 年が経過しました。コンソーシアムでは、数値予報用実況解析、各種数値予報データなどの気象庁モデルの出力データのみならず、海面水温解析値や気象衛星ひまわり 8 号データなどの最先端の解析・観測データの提供などを通じ、気象研究とその研究成果の社会還元への促進に努めています。

本分科会では、

- (1) 数値予報の出力データを利用した研究
- (2) 気象衛星ひまわり 8 号データなど新しい観測データを用いた研究
- (3) 数値予報モデル・データ同化手法の開発と精度向上の研究

などに関する講演を募集し、気象庁データが拓く新しい気象研究について展望します。なお、本分科会への講演申込には、コンソーシアムへの参加の如何は問いません。

コッピナー: 坪木和久 (名古屋大学宇宙地球環境研究所), 余田成男 (京都大学大学院理学研究科), 永戸久喜 (気象庁予報部数値予報課)

気候変動影響への適応技術とその社会実装

日時: 大会第 1 日 (5 月 25 日) 10:00~11:30

場所: D 会場

趣旨: 2015 年 11 月に政府の「気候変動の影響への適応計画」が閣議決定された。これまでの温室効果ガスの排出量削減を主とした気候変動への緩和策に加え、気候変動の影響への対策として気候変動への適応策の推進が求められている。これを受け、省庁レベルでの適応プロジェクトが推進され、自治体においても適応基本方針などを策定する都道府県、政令指定都市などが増えてきて

いる。暑熱分野の例では、5m 以下の空間解像度のモデル計算に基づく街区スケールでの暑熱環境シミュレーションや、それに基づく暑熱対策の影響評価が実施可能となってきた。自治体施策の実施検討にそれらを利用する試みも進められている。

本専門分科会では、気候変動影響評価と自治体等を対象とした気候変動適応策に関する議論を行う。

コンピーナー：日下博幸（筑波大学）、大西 領（海洋研究開発機構）、原 政之（埼玉県環境科学国際センター）、鶴田治雄（リモート・センシング技術センター）、川久保 俊（法政大学）、田中博春（法政大学）

異常気象のメカニズムと要因分析

日時：大会第1日（5月25日） 13:30～17:00

場所：D会場

趣旨：1週間から1ヶ月程度の時間スケールで出現する顕著な天候変動—いわゆる異常気象—の理解は、気象学の重要テーマというだけでなく、一般社会にも大きな意味をもつ。気象庁では、社会経済に大きな影響を与える異常気象が発生した際に迅速な要因分析を行い発表することを目的として、2007年6月に異常気象分析検討会が設置された。この検討会は、現在まで官学連携の好例として活動を続けているが、2017年がちょうど10年の節目にあたる。そこで、本分科会では、異常気象分析検討会や現業の気候系監視を気象学会員に紹介するとともに、近年の異常気象に対するメカニズム・予測可能性・要因分析研究はもちろん、ENSO・IOD・温暖化といった長期の気候変動・変化と異常気象のかかわりなど、幅広い講演を募って議論を深めたい。

コンピーナー：木本昌秀（東京大学大気海洋研究所）、中村 尚（東京大学先端科学技術研究センター）、前田修平（気象研究所気候研究部）、高橋清利（気象庁地球環境・海洋部）、渡部雅浩（東京大学大気海洋研究所）

福島第一原子力発電所からの放射性物質の拡散の実態と影響—事故後6年を経過して—

日時：大会第4日（5月28日） 9:30～11:30

場所：C会場

趣旨：福島第一原子力発電所の事故から5年半を経過し、事故以後に開始された環境放射能汚染に関する研究プロジェクトによる成果もいろいろ出てくるようになり、日本気象学会では事故直後にスペシャルセッション、シンポジウムを開催してきましたが、6年を契機にその後新たにわかった放射性物質の拡散沈着の状況、発生量推定、拡散・沈着・再飛散に関する数値モデルに関する不確実性の削減と活用、今後の政策への提言等の課題に関してこれまでの研究成果を中間的にとりまとめるとともに、今後どのように取り組んでいくかについて議論する分科会を開催したいと思います。

コンピーナー：近藤裕昭（日本気象協会・産業技術総合研究所）、石川裕彦（京都大学）、岩崎俊樹（東北大学）、鶴田治雄（リモート・センシング技術センター）、渡邊明（福島大学）

新世代静止気象衛星ひまわり8号がもたらす新しい気象学

日時：大会第4日（5月28日） 9:30～11:30

場所：D会場

趣旨：「ひまわり8号」は、前運用衛星の「ひまわり7号」に比べ、水平解像度・バンド数・観測頻度といった観測機能が大幅に強化された。同衛星は、2015年7月7日に運用を開始し、観測データを順調にユーザへ提供し続けている。

同衛星については、2011年及び2015年の春季大会でも専門分科会を実施し、活発な議論が交わされた。その後もデータを利用した研究や技術開発が着実に進展しており、台風や局地的大雨などの顕著現象の実況監視や、データ同化を通じた数値予報モデルの予測精度の向上などの成果が報告されている。

同衛星の運用開始から2年近くが経過する本大会で、これまでの利用成果やプロダクト開発、今後の利用計画、データ提供や校正・運用等について情報を共有し、同衛星がもたらす新しい気象学の知見について幅広く議論したい。

コンピーナー：岡本幸三（気象研究所）、岩淵弘信（東北大学大学院理学研究科）、増永浩彦（名大宇宙地球環境研究所）、石元裕史（気象研究所）、大野智生（気象庁気象衛星センター）

2015年と2016年の台風

日時：大会第4日（5月28日） 13:30～17:00

場所：C会場

趣旨：2015年には、台風18号に伴う鬼怒川豪雨により堤防が決壊、流域に大規模な水害が発生したほか、台風15号や21号によって沖縄では記録的な暴風が吹き荒れた。2016年には、台風1号の発生が例年に比べて大幅に遅れたものの、台風7号・9号・10号・11号・12号・16号・18号などが相次いで接近・上陸し、北海道や東北をはじめ各地で大きな被害が発生した。これらの台風の中には、通常とは異なる経路をとったものもあった。このように、過去2年間の台風の挙動には、気象学的にも気候学的にも興味深い現象が多いばかりでなく、社会的にも関心が高く、様々な視点から議論する場を設ける意義は非常に大きい。そこで、本専門分科会では、手法や時空間スケールを問わず、2015年及び2016年の台風に関する研究を募集し、議論を行う。そして、参加者が多面的に台風の姿を捉え、台風研究についての現状認識と課題を共有することを目的とする。

コンピーナー：伊藤耕介（琉球大学）、佐藤正樹（東京大学）、筆保弘徳（横浜国立大学）、坪木和久（名古屋大学）、別所康太郎（気象庁）、山口宗彦（気象研究所）、中野満寿男（海洋研究開発機構）

偏波レーダーを用いた観測解析技術と利用法の展開

日時：大会第4日（5月28日） 13:30～17:00

場所：D会場

趣旨：偏波レーダーは、これまで大学や研究機関で技術開発や利用方法の研究が進められ、2010年から国交省がXRAIN（XバンドMPレーダー雨量情報）に採用、気象庁でも2016年から現業運用が始められました。

精力的に進められている偏波レーダーの観測手法の開発、精度の高い降水強度の推定、降水種別の判定、データ同化などの偏波データの利用法の開発は、豪雨災害の軽減だけでなく、雲微物理過程や降水現象の機構解明などの研究分野をさらに発展させていくものと期待され

ています。

このセッションは、偏波レーダーが、どのように利用され活用されているのか、その情報交換の場にしたいと思います。偏波レーダーで観測されている皆さんや、偏波レーダーの観測データを利用している皆さん、興味をお持ちの方々の発表と参加を期待いたします。

コンビーナー：瀬古 弘（気象研究所）、上田 博（名古屋

大学）、真木雅之（鹿児島大学地域防災教育研究センター）、中北英一（京都大学防災研究所）、佐藤晋介（情報通信機構）、大東忠保（名古屋大学宇宙地球環境研究所）、出世ゆかり（防災科学研究所）、足立アホロ（気象研究所）、川畑拓矢（気象研究所）

公開気象講演会のお知らせ

※公開気象講演会への参加は事前申込みが必要です。詳しくは公開気象講演会参加登録のページ (<http://www.metsoc.jp/?p=5906>) をご覧ください。参加は無料です。

日時：2017年5月28日(日) (大会第4日) 13:30～17:00
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター セミナーホール417 (大会A会場)

テーマ：「大雨災害」に備える

主催：公益社団法人日本気象学会 教育と普及委員会

後援：一般社団法人日本気象予報士会

趣旨：日本気象学会2017年度春季大会の開催にあわせて、一般市民の方々に気象に関する最新の研究成果や関心の深い事柄について解説することを目的として、公開気象講演会を開催します。今回は、「大雨災害」をテーマとして取り上げます。毎年、日本各地で大雨が発生し、土砂崩れ、河川のはん濫、家屋の床上・床下浸水などの甚大な災害がもたらされています。近年では、平成26年8月の広島県での大雨や平成27年9月関東・東北豪雨などがあり、多くの尊い命が失われました。

今回の講演会では、「大雨」の気象学的な理解を深めるとともに、「大雨」に対する防災・減災に焦点を当てます。防災・減災については、防災気象情報の出し手、伝え手、受け手のそれぞれの立場から、さまざまなご経

験やご意見などを紹介して頂きます。奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

テーマおよび講演者：

1. 「積乱雲の発生・組織化と大雨の発生メカニズム」
加藤輝之（気象庁）
2. 「気象庁が発表する大雨に関する防災気象情報(仮題)」
高橋賢一（気象庁）
3. 「防災気象情報の伝え方(仮題)」
木原 実（気象予報士/防災士）
4. 「市町村の防災気象情報を活用した防災・減災対応」
出水田正志（龍ヶ崎市役所）
5. 「パネルディスカッション」
司会：津口裕茂（気象研究所）

問い合わせ先：津口裕茂（教育と普及委員会）

TEL: 029-853-8643（気象研究所予報研究部）

E-mail: msj-ed_2017@metsoc.jp

ジュニアセッションのお知らせ

※下記の趣旨のため、多くの学会会員の皆様にご参加いただき質疑やコメントをくださいますよう宜しくお願いいたします。
※ジュニアセッション発表者・見学者の参加は無料です。

日時：2017年5月28日(日) (大会第4日) 10:30～12:30
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター 401・402・403・409会議室 (大会ポスター会場)

主催：公益社団法人日本気象学会 教育と普及委員会・講演企画委員会

趣旨：時々刻々変化し、人々の生活に大きな影響を及ぼす気象。若い人たちにとっても、興味は尽きないことでしょう。日本気象学会は、主として高校生世代を対象に、「ジュニアセッション」を開催しています。この企画は、生徒たちが自ら行った気象や大気に関する調査・研究の成果を、専門家の前で発表体験すること、また、意見交換することによって調査・研究を深めてもらうことを主な目的としています。気象や大気に対する若い人たちの興味や探究心が高まることで、より豊

かな社会の招来に繋がることを期待しています。

発表資格：高等学校、高等専門学校生(1～3学年)の生徒(新卒者含む)個人またはグループ。中学生の発表も可。

発表内容・形態：ポスターセッション形式。内容は気象・気候や大気についての生徒による調査・研究成果。

見学資格：発表者がいない学校の生徒、教諭、引率者。

申し込み方法：ジュニアセッション2017のページ

(<http://www.metsoc.jp/?p=7096>) をご覧ください。申込方法は(<http://www.metsoc.jp/?p=7101>) をご覧ください。

参加特典：

1. 発表者の全員に対し、「発表認定証」を発行します。
2. 日本気象学会ホームページに発表者や発表要旨

などを掲載し、顕彰します。

3. 発表者は、専門家による質疑やコメントを通じて、研究の要領やヒントを得たり、また参加者間の交流を深めたりすることができます。
4. 発表者・見学者・引率者は春季大会における各種セッション、シンポジウム、講演等を無料聴講で

きます。

問い合わせ先：公益社団法人日本気象学会 教育と普及委員会
東京都千代田区大手町 1-3-4 気象庁内
TEL: 03-3216-4403 FAX: 03-3216-4401
E-mail: msj-ed_2017@metsoc.jp

研究会のお知らせ

何れも参加は無料・事前の申込も不要ですので、興味のある方はご自由にご参加下さい。

第 47 回メソ気象研究会・第 10 回気象庁数値モデル研究会

日時：2017 年 5 月 24 日（水）（大会前日）13:30～17:30

場所：気象庁講堂（東京都千代田区大手町 1-3-4）

テーマ：「数値モデルによる積乱雲とその効果の表現」

コンピーナー：加藤輝之（気象研），永戸久喜（気象庁数値予報）

内容：メソ気象の事例解析では、不十分な観測データを補完するためには数値モデルによるシミュレーションが欠かせません。特に積雲対流にともなう降水事例の解析においては、数値モデルにおける積乱雲そのものやその効果の表現が非常に重要です。積乱雲そのものの表現については、雲・降水粒子の盛衰の過程を扱う雲微物理スキームが数値モデルに導入され、水平解像度が 100～500m になれば可能と言われていますが、積雲対流の特性を支配する様々なスケールの現象を全て表現可能かどうかや、雲微物理スキームや解像度の依存性など、幾つかの検討すべき課題があります。一方、個々の積乱雲を表現できない、概ね 5km 以上の水平解像度の数値モデルでは、積雲対流の効果をパラメタライズしたスキーム（積雲対流スキーム）が用いられています。気候モデルや季節予報モデルはもとより、気象庁で短期・中期予報用に現業運用されている全球モデルやメソモデルにおいても積雲対流スキームが用いられており、予測精度への影響が大きいことからその改良や高度化は重要な開発課題の一つとなっています。積雲対流の特性を支配する様々な現象の効果を適切に表現するためには、積雲対流に関する様々な知見を基にそれらを適切にモデル化するための取り組みが必要です。今回のメソ気象研究会では、気象庁数値モデル研究会との共催で、高解像度数値モデルにおける積乱雲や降水の振る舞いに加えて、積雲対流のパラメタライゼーションに対する取り組みについて講演を行っていただき、積乱雲やその効果の表現に関する双方の現状と課題を共有し、それぞれの知見をどのようにして互いの課題解決に活かしていくべきかを議論したいと考えております。観測による知見をお持ちの方も含めて、多くの方々のご参加と活発な議論をお願いいたします。

プログラム：

13:30-13:40 開会挨拶・趣旨説明

13:40-14:10 「対流活動における大気成層の構造変化・上昇流に対する数値モデルの水平解像度の影響」

加藤輝之（気象研）

14:10-14:40 「積雲対流の発達と環境の安定度・水蒸気量との関係」

竹見哲也（京大防災研）

14:40-15:10 「超高解像度全球雲解像実験からわかる対流の統計的性質」

富田浩文（理研計算科学）

休憩

15:30-16:10 「積雲対流パラメタライゼーションの概要と気象庁現業メソモデルの積雲対流スキーム」

松林健吾（気象庁数値予報）

16:10-16:35 「気象庁現業全球モデルの積雲対流スキーム」

氏家将志（気象庁数値予報）

16:35-17:00 「気象研究所地球システムモデルの積雲対流スキーム」

吉村裕正（気象研）

17:00-17:30 総合討論

世話人：坪木和久（名大宇地研），加藤輝之（気象研），小倉義光（東大気海洋研）

連絡先：加藤輝之（気象研）

E-mail: tkato@mri-jma.go.jp

注意事項：講堂でのご飲食はご遠慮ください。トイレは 1F をご利用ください（名札を提示されるとゲートを通してもらえます）。

オゾン研究連絡会

日時：2017 年 5 月 25 日（木）（大会第 1 日）

18:00～20:00

場所：309 会議室（センター棟 3F）（大会 B 会場）

テーマ：「航空機観測キャンペーンについて」

内容：近年、東アジアにおける大気質を対象とした航空機観測キャンペーンが活発に行われている。Korea-United States Air Quality Study (KORUS-AQ) 2016 キャンペーンは NASA と韓国が共同で 2016 年 4-6 月に実施した航空機観測キャンペーンである。主に韓国周辺の上空での観測であったが、DC-8 機は佐賀や福江の上空にも飛来した。現在、地上・衛星観測やモデルシミュレーションと合わせたデータ解析が進行中である。2020 年頃には再度航空機観測計画が進行中であるが、内容はまだ未確定で、今後の参加も可能な段階にある。一方、2018 年 4 月ごろにはドイツの観測専用機 HALO を用いた観測キャンペーン Effect of Megacities on the Transport and Transformation of Pollutants on the Regional to Global

Scales(EMeRGe)-Asia が予定されており、台湾をベースに、日本や東南アジアの上空を観測ターゲットとしている。その他に計画中のキャンペーンも含め、海外からは日本からの参加者を求めている。今回の研究会では、これらの航空機観測や今後の計画について情報提供を行うと共に、日本の貢献がみえるべく、オールジャパン体制での参加を意識した対応について議論することを目的として企画した。また併せて、昨年9月にエディンバラにて開催された国際オゾンシンポジウムの参加者から、最新のオゾン研究関連の情報を提供いただく予定である。

講演者：

「KORUS-AQ について」

宮崎和幸 (海洋研究開発機構) 40 分

「EMeRGe について」

金谷有剛 (海洋研究開発機構) 40 分

「まとめと討論」

司会 林田佐智子 (奈良女子大学) 20 分

「国際オゾンシンポジウム報告」

中島英彰 (国立環境研究所) 20 分

世話人：林田佐智子 (奈良女子大学)、笠井康子 (情報通信研究機構)、金谷有剛 (海洋研究開発機構)、高島久洋 (福岡大学)、宮崎和幸 (海洋研究開発機構)

連絡先：林田佐智子 (奈良女子大学)

E-mail: sachiko@ics.nara-wu.ac.jp

極域・寒冷域研究連絡会

日時：2017年5月25日(木) (大会第1日)

セッション終了後～2時間程度

場所：310会議室(センター棟3F) (大会C会場)

テーマ：マルチスケールで考える、都市における降雪・積雪

趣旨：人口の集中する都市での大雪は、交通障害等の社会的な影響が大きく、その範囲も想定外なものになることがあります。2016年11月には東京都心で11月としては観測史上初めて積雪が観測され、12月には札幌で50年ぶりに90cmを超える積雪となり、鉄道や空港が大混乱となりました。こうした都市部を襲う降雪現象に対しては南岸低気圧やポーラー・ローのスケールから、平野・局地スケールに至るさまざまな降雪過程を考慮する必要があります。今回はこのような極端な降雪・積雪現象に対して、実際に大雪に見舞われた現業官署での対応、予測向上へ向けた新しい試み、市民参加による広域の情報収集の手法のもつ可能性などについて3名の方にご講演をいただきます。関連する内容での飛び入りの発表も歓迎します。

1. 「2016年12月の札幌市・新千歳空港での大雪について」
浅井博明 (気象庁新千歳航空測候所)
2. 「2016年12月の北半球の大気循環とその予測可能性」
佐藤和敏 (国立極地研究所)
3. 「市民科学による超高密度広域雪結晶観測」
荒木健太郎 (気象研究所)

問い合わせ先：大島和裕 (海洋研究開発機構)

TEL: 046-867-9261

E-mail: kazuhiko@jamstec.go.jp

第1回気象学史研究会

日時：2017年5月27日(土) (大会第3日)

18:00～20:00

場所：309会議室(センター棟3F) (大会B会場)

テーマ：「気象学史研究はどうあるべきか」

内容：2016年12月に発足した気象学史研究連絡会による第1回目となる研究会です。そこで気象力学研究の世界の第一人者として活躍される傍ら、科学史など歴史的観点からも発言を続けてこられた京都大学名誉教授・元学会理事長の廣田勇先生と、科学史の分野で特に気象学史に関心を持ち続け、気象学会員との共同研究でも多くの成果をあげられている神戸大学教授の塚原東吾先生をお迎えして、それぞれの視点から気象学史研究のあり方へのご提言をいただきます。ご参加のみなさま各々の洞察を深める契機としていただければ幸いです。なお、本研究会は気象学史研究に関心を持つより多くの方の間の情報・意見交換をうながすため、学会員以外の方にも広く参加を呼びかけて開催いたします。

プログラム：

ご挨拶 三上岳彦 (帝京大学)

気象学史研究連絡会の発足にあたって

基調講演 廣田勇 (京都大学名誉教授)

歴史を学ぶ、歴史に学ぶ 一科学史の視点に関する一考察

招待講演 塚原東吾 (神戸大学)

科学史のなかでの気象学史：「歴史の科学化」と社会史視点という両輪

総合討論

連絡先：山本 哲 (気象研究所)

TEL: 029-853-8615 FAX: 029-855-7240

メールでのお問い合わせは気象学史研究連絡会ウェブサイトの問い合わせフォームをご利用ください。

<https://sites.google.com/site/meteorolhistoryjp/>

大会期間中の保育支援について

大会実行委員会では、大会期間中の保育施設として、次の施設を紹介します。

1. セルリアンタワーポピンズキッズルーム

URL: <https://www.poppins.co.jp/nursery/cerulean.html>

TEL: 03-5728-1377

アクセス：渋谷駅から徒歩5分

利用可能時間：10:00～20:00 (営業時間外 8:00～10:00/20:00～23:00 の予約は要相談)

完全予約制：定員10名。利用希望日の1ヶ月前～2日前の10時～19時の間に施設へ直接予約。

利用料金等：ビジター基本料金、延長料金、早朝夜間料金、持ち物等については施設ホームページを参照。

2. JBS 子供の部屋

URL: <http://www.jbs-mom.co.jp/sitting.html#14>

TEL: 03-3423-1251

アクセス: 原宿駅から徒歩 10 分

利用可能時間: 平日 9:00~17:00; 土曜日 9:00~12:00

完全予約制: 定員 6 名. 施設へ直接予約. 定員に満たない場合は当日申し込みも可能(朝一番の申し込みでも午後からの利用になる場合あり).

利用料金等: ビジター料金, 延長料金, 持ち物等については施設ホームページ参照.

※参考情報 (青少年教育情報センター内キッズコーナー)

国立オリンピック記念青少年総合センターのセンター棟 2 階にはキッズコーナーが併設されています. 付添人が必要ですが絵本などを自由に閲覧でき, 利用は無料です.

URL: <http://www.niye.go.jp/services/research/#jyohos>

アクセス: 大会会場と同じセンター棟内

利用可能時間: 平日 12:00~16:00

土・日曜日 11:00~17:00

利用料金等: 無料. 飲食不可, 簡易授乳室あり, オムツ替え可能. 土曜日の午後は「絵本お話し会」開催.

大会実行委員会では, 利用料金の一部を補助する予定です. 上記施設以外の保育施設を利用される方も, この対象になります. 詳細は日本気象学会の「学会大会時の保育支援にかかるガイドライン」

(http://jinzai.metsoc.jp/files/childcare_support_guideline.pdf) をご覧になり, 保育支援をご希望される方は, 下記担当者までご連絡ください. それ以外のお問い合わせについてもできる限りご対応致します.

連絡先: 猪上 淳 (国立極地研究所)

E-mail: inoue.jun@nipr.ac.jp

TEL: 042-512-0681

リクルートブースの設置について

ポスター発表が行われる場所に隣接して, 会場内にリクルートブースを設ける予定です. これは, 民間企業から適職に出会うための機会を提供して頂き, 気象学会に所属する大学院生や有期雇用研究者との間での情報交換を通じて, 彼らのキャリア形成をサポートすることが目的です. 参加予約手続きは不要です. ブースでは, ポスター発表時間および昼休みにのみ, 企業担当者が対応します.

リクルートブースに出展予定の企業は以下の通りです

(2017 年 3 月 15 日現在). *の企業は 5 月 25 日 (木) と 26 日 (金), それ以外の企業は 27 日 (土) と 28 日 (日) の開設を予定しています.

株式会社ウェザーニューズ
 オフィス気象キャスター株式会社
 気象工学研究所*
 日本気象株式会社*
 一般財団法人日本気象協会*
 (五十音順)

秋季大会の予告

2017 年度秋季大会は, 2017 年 10 月 30 日 (月) ~11 月 2 日 (木) に北海道大学で開催される予定です.

大会第1日〔5月25日(木)〕 10:00~11:30 一般口頭発表**A 会場****中高緯度大気**

座長：川野 哲也（九大院理）

- A101 佐藤 令於奈（福岡大院理） 冬季北半球中緯度における雲の季節内変動に関する解析
- A102 佐藤 尚毅（学芸大） 早春における関東地方南岸での低気圧活動と降水の極大
- A103 加藤 内藏進（岡大・教育・理科） 秋が深まった時期の台風に伴う日本列島での広域降水の特徴（その2：Ty1326時の特徴を盛夏期や秋雨期の事例と比較して）
- A104 川野 哲也（九大院理） 北海道に暴風雪被害をもたらす温帯低気圧の構造変化
- A105 平沢 尚彦（極地研） 南極氷床縁辺域における物質の鉛直輸送のメカニズム

大会第1日〔5月25日(木)〕 10:00～11:30 一般口頭発表**B 会場****観測手法 I**

座長：足立 アホロ（気象研）

- B101 宇塚 和夫（トックベアリング）高精度転倒ます雨量計の研究
- B102 青梨 和正（気象研）次世代のマイクロ波イメージャ降水リトリバルアルゴリズム開発（その5）：TRMM と GPM の第1推定値の誤差 PDF の統計的比較
- B103 佐藤 晋介（NICT）フェーズドアレイ気象レーダーのデータ品質管理 ～QC フラグのリアルタイム作成～
- B104 花土 弘（NICT）情報通信研究機構での偏波気象レーダ開発について
- B105 足立 アホロ（気象研）二重偏波レーダーデータの自己整合性に基づく粒径分布抽出手法の改良
- B106 菊池 博史（阪大院工）Ku帯広帯域二重偏波レーダによる比偏波間位相差を用いた降雨強度推定精度の評価
- B107 佐藤 英一（気象研）二重偏波レーダーを用いた火山噴煙の観測について

大会第1日〔5月25日(木)〕 10:00～11:30 専門分科会

C 会場

気象庁データを利用した気象研究の現状と展望

趣旨説明

座長：坪木 和久（名大宇地研）

- C101 *石田 純一（気象庁数値予報） 気象庁現業数値予報システムの現状と開発計画
- C102 *米原 仁（気象庁数値予報） 気象庁全球モデルにおける近年の開発と今後の課題
- C103 *原 旅人（気象庁数値予報） 気象庁現業メソモデルの最近の開発とその成果
- C104 **笹川 悠（気象研） 気象研究コンソーシアムにおける気象庁データの提供について
- C105 谷田貝 亜紀代（弘前大理工） 極端降水評価と気象解析のための APHRODITE アルゴリズムの改良—APHRODITE-2 紹介—
- C106 大竹 秀明（産総研） 米国における再生可能エネルギー出力予測に関する最新動向
- C107 村山 泰啓（NICT） 「オープンサイエンス」および研究データ共有の動向

総合討論

1 件あたりの持ち時間は、*は 13 分、**は 7 分、それ以外は 10 分

大会第1日〔5月25日(木)〕 10:00～11:30 専門分科会**D 会場****気候変動影響への適応技術とその社会実装**

座長：大西 領 (JAMSTEC)

- D101 田中 博春 (法政大地域研) 気候変動影響への適応技術とその社会実装について
- D102 焼野 藍子 (JAMSTEC) 高解像街区スケールシミュレーションによる熊谷スポーツ文化公園の暑熱環境解析
- D103 杉山 徹 (JAMSTEC) 産官学協働による適応策検討ー横浜みなとみらい21地区を例にー
- D104 若月 泰孝 (茨城大) 高解像 RCM 実験情報を利用した統計的ダウンスケーリング (続)
- D105 田中 博春 (法政大地域研) 気候変動適応技術の普及要因 ～北海道農業の事例からの考察

総合討論

大会第1日〔5月25日(木)〕 13:30~17:00 一般口頭発表

A 会場

熱帯大気・台風

座長：服部 美紀 (JAMSTEC)

- A151 寺尾 徹 (香川大教育) 夏季チベット高気圧域等の客観解析に見られる上部対流圏不安定化
- A152 坂崎 貴俊 (ハワイ大 IPRC) 熱帯降水日変化への成層圏の役割
- A153 小野 茉莉花 (東大大気海洋研) GPM DPR データを用いた中・低緯度の降水システム特性の海陸による違いに関する統計解析
- A154 藤島 美保 (東大 AORI) TRMM 衛星データを用いた熱帯の海陸遷移領域における降雨特性の統計的解析
- A155 服部 美紀 (JAMSTEC) フィリピン海コールドサーージ観測の熱帯域および南半球へのインパクト
- A156 伍 培明 (DCOP) 海陸の気温コントラストがスマトラ島上の対流日変化に対する影響
- A157 末松 環 (理学系研究科) Testing the hypothesis that the MJO of pre-YMC can be explained by the seasonal transition of SST

座長：山口 宗彦 (気象研)

- A158 松岸 修平 (東大院理) 放射対流準平衡実験における自己組織化前後の対流特徴の変化
- A159 柳瀬 亘 (東大大気海洋研) 温度・鉛直シア・惑星渦度のパラメータ空間における低気圧の理想化実験
- A160 藤原 圭太 (九大院・理) 台風と水蒸気コンベアベルトのフィードバック過程
- A161 伊藤 耕介 (琉大理) 高解像度大気モデルと結合モデルによる北西太平洋全域台風予測実験
- A162 伊藤 耕介 (琉大理) 猛烈な台風の強度に関する「波しぶき水平輸送」仮説
- A163 山口 宗彦 (気象研) コンセンサス手法による台風強度予報ガイダンスの開発
- A164 久保田 尚之 (東大大気海洋研) 雷放電及び超小型衛星を駆使したフィリピンにおける極端気象の監視・情報提供システムの開発

大会第1日〔5月25日(木)〕 13:30~17:00 一般口頭発表

B 会場

観測手法Ⅱ

座長：川村 誠治 (NICT)

- B151 西田 圭吾 (RISH) デジタル放送波を用いた地表付近の屈折率推定
- B152 川村 誠治 (NICT) 地デジ放送波の複数の反射波を用いた水蒸気推定
- B153 久保田 匡亮 (京大) MU レーダー実時間アダプティブクラッター抑圧システムの開発
- B154 山田 芳則 (気象研) ドップラーレーダーによる複雑地形上での風解析
- B155 山本 雄平 (京大院理) 土地被覆分類を考慮したひまわり 8 号地表面温度プロダクトとその精度検証
- B156 澁谷 和樹 (明治大学大学院) TDR 法を用いた霜センサによる結霜と凍露の判別と発生環境

大気力学

座長：相木 秀則 (名大宇地研)

- B157 相木 秀則 (名大宇地研) 中緯度惑星波と赤道波のエネルギーフラックスの全球シームレス解析に向けて (II)
- B158 野田 彰 (気象研) データ解析における残差循環の任意性と多様性
- B159 澁谷 亮輔 (東大院理) 対流圏界面逆転層の緯度依存性及び季節変化に関する研究
- B160 桜井 誠 (筑波大生命環境) 北極温暖化増幅と傾圧不安定波の理論的關係
- B161 岡崎 正悟 (神戸大・理) 準地衡 2 層モデルにおける Nastrom-Gage スペクトルの形成メカニズムの検証
- B162 林 佑樹 (東大院理) 非定常な波強制に対する中層大気 2 次元及び 3 次元循環の形成
- B163 高木 征弘 (京産大理) 金星 GCM にみられる惑星規模の短周期擾乱
- B164 山本 勝 (九大応力研) 地形が金星大気大循環に与える影響
- B165 村橋 究理基 (北大院理) 火星大気を想定した高解像度 LES で得られた地表面応力分布

大会第1日〔5月25日(木)〕 13:30~17:00 一般口頭発表

C 会場

データ同化

座長：川畑 拓矢（気象研）

- C151 石橋 俊之（気象研） 気象研究所大気海洋結合同化システム（MRI-CDA1）の数値天気予報システムとしての性質
- C152 小槻 峻司（理研計算科学） アンサンブルデータ同化を用いた NICAM のモデルパラメータ推定
- C153 清水 慎吾（防災科研） cloud-scale における熱力学場同化実験の降水予測精度評価
- C154 川畑 拓矢（気象研） 二重偏波レーダーデータを用いた降雹事例に関するデータ同化実験
- C155 大塚 成徳（理研計算科学） フェーズドアレイ気象レーダを用いた三次元降水補外予測のリアルタイム運用実験
- C156 岩本 尚大（RISH） コヒーレント・ドップラー・ライダーと数値予報モデルによる局地的豪雨の再現実験
- C157 青梨 和正（気象研） Neighboring Ensemble に基づく変分同化法を使った PALAU2013 事例への衛星搭載マイクロ波放射計輝度温度の同化実験
- C158 前島 康光（理研・計算科学） 2015 年 9 月関東・東北豪雨事例における高密度地上観測のデータ同化実験

座長：寺崎 康児（理研計算科学）

- C159 露木 義（気大） 渦位反転可能原理に基づくアンサンブルカルマンフィルタ
- C160 斉藤 和雄（気象研） アンサンブルデータ同化のための摂動手法について（2）
- C161 山崎 哲（JAMSTEC） 南極点ゾンデ観測同化のための AFES-LETKF 同化システムの改良
- C162 寺崎 康児（理研計算科学） 非対角な観測誤差共分散行列の Reconditioning によるデータ同化の安定性について
- C163 石橋 俊之（気象研） 観測誤差共分散構造の診断とその利用（3）
- C164 近藤 圭一（理研計算科学） アンサンブルデータ同化における鉛直誤差相関の調査
- C165 レ デュック（JAMSTEC） Comparison between observation space localization and model space localization in an EnVAR system
- C166 鈴木 和良（JAMSTEC） Single observation 実験に基づく大気陸面結合モデル内の予報誤差共分散の構造—積雪期のシベリアでの解析—

大会第1日〔5月25日(木)〕 13:30~17:00 専門分科会

D 会場

異常気象のメカニズムと要因分析

冒頭あいさつ

座長：中村 尚（東大先端研）

- D151 *前田 修平（気象研気候）官学連携による異常気象分析検討会の立ち上げの経緯
- D152 *齋藤 仁美（CPD/JMA）異常気象分析検討会の活動について
- D153 高谷 祐平（気象研）2016年夏季前半の不活発な台風活動の予測と要因分析
- D154 小林 ちあき（気象研）MIMを用いた大気の全球エネルギー量変動における ENSO の影響
- D155 塩崎 公大（京大院理）ENSO と極東域の寒暖との関係
- D156 西井 和晃（三重大生物資源）ユーラシア大陸寒冷化と北極海での海氷減少

休憩(10分)

座長：渡部 雅浩（東大気海洋研）

- D157 土井 威志（JAMSTEC）海洋亜表層観測データを用いた初期値補正とインド洋ダイポールモード現象の予測精度向上について
- D158 植田 宏昭（生命環境）アジアモンスーン域の降水・降雪・台風の年々変動
- D159 今田 由紀子（気象研）2016年の世界の異常高温事例の多発に関する要因分析
- D160 釜江 陽一（筑波大生命環境）北太平洋 atmospheric rivers 発生頻度の気候学的分布とその変動
- D161 塩竈 秀夫（環境研）2.0°C安定化から1.5°C安定化への追加緩和努力によって、極端現象の将来変化をどの程度低減できるのか？
- D162 堀之内 武（北大・地球環境）ジェット・渦位分布と降水分布
- D163 見延 庄士郎（北大・院・理）メキシコ湾流がヨーロッパ・ブロッキングにもたらす影響

終了あいさつ

*は招待講演、1件あたりの持ち時間は、*は20分、それ以外は14分

大会第2日〔5月26日(金)〕 9:30~11:30 一般口頭発表

A 会場

気候システム I

座長：横畑 徳太（国環研）

- A201 横畑 徳太 (国環研) 永久凍土不可逆融解による温室効果ガス放出量の現状評価と将来予測
- A202 小畑 淳 (気象研) 巨大火山噴火寒冷化による低緯度植物生産の増加
- A203 神山 翼 (ワシントン大大気) 非線型 ENSO 温暖化抑制(NEWS)仮説
- A204 戸田 賢希 (AORI) 温暖化時の降水応答に対する循環場の寄与
- A205 川合 秀明 (気象研) 気象研究所気候モデルにおける雲表現の改善
- A206 中島 健介 (九大・理) ウォーカー循環再考：水惑星熱源応答実験からの示唆
- A207 春山 哲範 (新潟大院) 大気の極向きエネルギー輸送の評価における質量フラックス問題に関する一考察
- A208 森岡 優志 (JAMSTEC/APL) SINTEX-F2 decadal climate prediction in the southern Indian Ocean
- A209 黒田 友二 (気象研) 南半球冬季亜熱帯ジェットの維持機構

大会第2日 [5月26日(金)] 9:30~11:30 一般口頭発表

B 会場

降水システム I

座長 : 折笠 成宏 (気象研)

- B201 荒木 健太郎 (気象研) 市民科学による超高密度広域雪結晶観測 -2016年11月24日関東降雪事例-
- B202 高橋 庸哉 (北教大) 樹枝状雪結晶に形態多様性をもたらす成長条件を解明する風洞実験-成長時間の効果
- B203 折笠 成宏 (気象研) つくばでの地上モニタリング観測によるエアロゾル・雲核・氷晶核数濃度の変動
- B204 郭 子仙 (気象研) Study of CCN and IN abilities of Al_2O_3 and Fe_2O_3 using MRI dynamic cloud chamber and MRI IN counter
- B205 田尻 拓也 (気象研) シーディング物質の吸湿度と雲粒生成に関する実験
- B206 中井 専人 (防災科研・雪氷) レーダー・降雪粒子同時観測に基づく降雪種ごとの Zh-R
- B207 篠田 太郎 (名大宇地研) 北陸地方における走査型 Ka 帯偏波レーダを用いた降雪雲の観測
- B208 久芳 奈遠美 (AORI) 暖かい雨に対する雲物理スキーム比較実験 -衛星シミュレータを用いたバルク法とビン法の比較-
- B209 佐藤 陽祐 (理研計算科学) 全球モデルにおける第2種間接効果の精緻な表現に必要な要素 ~全球雲解像モデルと GCM の比較から~

大会第2日 [5月26日(金)] 9:30~11:30 一般口頭発表

C 会場

気象予報

座長 : 伊藤 純至 (気象研)

- C201 伊藤 純至 (気象研) 気象庁非静力学モデルの系統的なサブキロメートル水平解像度実験
- C202 牛山 朋來 (土研 ICHARM) フィリピン・パンパンガ川流域におけるアンサンブル降水予報実験
- C203 西川 雄輝 (AORI) Terrain-following 座標系における thin-wall 近似を用いた Hybrid 地形表現スキーム
- C204 佐藤 和敏 (極地研) 北極海のラジオゾンデ観測データが冬の中緯度で生じる寒波の予報精度に与える影響
- C205 加藤 亮平 (防災科研) FSS 計算における許容可能な位置ずれスケールの上限を決定する方法の提案—局地的大雨への適用—
- C206 栗津 妙華 (理研計算科学) 降水領域の形状特徴による降水予測の検証手法
- C207 中里 真久 (気象庁) 保存則に基づく竜巻等突風の予測指数の開発—竜巻注意情報の精度向上の技術的基礎—

大会第2日〔5月26日(金)〕 9:30~11:30 一般口頭発表

D 会場

物質循環

座長：金谷 有剛 (JAMSTEC)

- D201 板橋 秀一 (電中研) 硫酸塩の大気中濃度と沈着量の発生源寄与の統合評価
- D202 甲斐 憲次 (名大環境) ゴビ砂漠におけるエアロゾルの粒子数密度と減衰後方散乱係数の関係
- D203 竹見 哲也 (京大防災研) 火山灰の大気輸送に及ぼす地形効果：桜島噴火の事例解析
- D204 松井 仁志 (名大環境学) 粒径分布と混合状態を解像した二次元ビン法を用いた全球エアロゾルモデルの開発
- D205 大島 長 (気象研) 気象研究所地球システムモデルの開発とブラックカーボンの空間分布と放射効果の評価
- D206 金谷 有剛 (JAMSTEC) MAX-DOAS 法による大気中二酸化窒素ガスの10年観測と衛星観測評価：衛星データを地表付近濃度に結び付け、利用を促進する
- D207 関谷 高志 (JAMSTEC) 全球化学輸送モデル CHASER による高分解能対流圏 NO₂シミュレーション
- D208 石戸谷 重之 (産総研) 南極上空成層圏において観測された大気重力分離と周辺域の気象場との関係
- D209 塩谷 雅人 (京大生存研) オゾンゾンデの応答時間に起因する系統誤差について

大会第3日 [5月27日(土)] 9:30~11:30 一般口頭発表**A 会場****気候システムII**

座長：釜江 陽一（筑波大生命環境）

- A301 菅野 湧貴（東北大院・理）北米寒気流の年々変動と対応する総観場
- A302 上野 健一（筑波大生命環境）インド亜大陸で日中に発生する MCS とモンスーンの季節内変動
- A303 尾瀬 智昭（気象研）アジア大陸気温のモデル再現性バイアスおよび関連する将来変化の要因
- A304 千葉 丈太郎（東大大気海洋研）高解像度全球大気モデルによるアンサンブル実験を用いた予測可能性の調査
- A305 釜江 陽一（筑波大生命環境）大西洋を発端とした近年のグローバルモンスーン強化傾向
- A306 楠 昌司（気象研）格子点で解析した梅雨期の将来変化
- A307 栗原 和夫（気象研）日本の梅雨後半期（7月）における温暖化時の降水量変化の地域的特徴（地域気候モデル・アンサンブル実験による）
- A308 村田 昭彦（気象研）雲解像アンサンブル地域気候シミュレーションによる日本の極端な降水量の将来予測
- A309 釜堀 弘隆（気象研）日本における台風降水量の分布

大会第3日 [5月27日(土)] 9:30~11:30 一般口頭発表**B 会場****降水システムII**

座長 : 小野村 史穂 (アルファ電子/気象研)

- B301 柄本 英伍 (東大大気海洋研) 2015年9月1日対馬海峡で突風を生じたメソβスケール渦の発生・発達機構
- B302 森 祐貴 (東大 AORI) スーパーセルに伴う竜巻の発達・維持における地表面摩擦の効果に関する数値的研究
- B303 湯浅 惣一郎 (高知大院理) 2016年10月5日に高知で発生した竜巻親雲の構造
- B304 小野村 史穂 (アルファ電子/気象研) 庄内平野で観測された竜巻渦の地上と上空の比較
- B305 岩下 久人 (MEC) 地上稠密気象観測によるダウンバースト発生時の気圧変化と突風予測可能性
- B306 楠 研一 (気象研) 二重偏波レーダーとドップラーライダーを組合わせた非降水ガストフロント探知-アルゴリズムの概念-
- B307 益子 渉 (気象研) 地上気象データを用いた突風の統計解析
- B308 高橋 周作 (学芸大) 冬季雷雲の発達過程と雷ガンマ線の関係性について

大会第3日〔5月27日(土)〕 9:30~11:30 一般口頭発表

C 会場

環境気象・大気境界層

座長：川端 康弘（気象研）

- C301 中澤 哲夫 (NIMS/KMA) ブルキナファソにおける気象変数と髄膜炎発症数との関連
- C302 藤部 文昭 (首都大・都市環境) 日本の熱中症死亡率の地域的・季節的特性
- C303 酒井 敏 (京大人環) フラクタル日除けによるクールアイランド実験
- C304 大橋 唯太 (岡山理大・生物地球) 暖候期に観測される高梁盆地の高温化
- C305 山本 哲 (気象研) 露場地面付近の気温鉛直分布観測
- C306 川端 康弘 (気象研) 都市キャノピースキームを用いた冬型事例の数値シミュレーション
- C307 稲垣 厚至 (東工大) 空撮地表面熱画像に基づく広域地表面近傍風速分布計測
- C308 高咲 良規 (立正大) 気象庁非静力学モデルを用いた台風 9119 号(リンゴ台風)の青森県に発生したおろし風
- C309 村松 貴有 (新千歳航空測候所) 2016年6月28日に函館沖津軽海峡で発生した低層波状雲の事例解析

大会第3日〔5月27日(土)〕 9:30~11:30 一般口頭発表

D 会場

大気放射

座長：齊藤 雅典（東北大院理）

- D301 内山 明博 (NIES) スカイラジオメーター (POM02) の特性 (衛星推定エアロゾルプロダクト検証に向けて)
- D302 内山 明博 (NIES) 改造スカイラジオメーターによる月を光源としたエアロゾル光学的厚さの推定
- D303 宇都宮 健志 (気象協会) 主成分分析による日射スペクトル変動特性の評価
- D304 関口 美保 (海洋大) エアロゾルによる雲の調整効果の地域特性について
- D305 大方 めぐみ (AORI) 衛星観測データを用いた3次元雲場の放射伝達効果に関する研究
- D306 岩渕 弘信 (東北大院理) モンテカルロ3次元放射伝達モデルによる多波長同時計算手法
- D307 齊藤 雅典 (東北大院理) CALIPSO 衛星観測から巻雲の光学・微物理特性と氷粒子形状を推定する手法の開発と検証
- D308 齊藤 雅典 (東北大院理) CALIOP-IIR 複合観測から得られた巻雲の氷粒子形状及びライダー比の地域・温度依存性
- D309 青木 輝夫 (岡山大) グリーンランド氷床の MODIS 衛星抽出積雪粒径-Terra と Aqua の違い

大会第4日〔5月28日(日)〕 9:30～11:30 一般口頭発表

A 会場

気候システムⅢ

座長：内山 常雄（気象予報士会）

- A401 山本 晴彦（山口大院創成科学研究科） 帝国日本における気象観測ネットワークの構築—樺太庁—
- A402 松本 健吾（岡山大・院） 長期データからみる梅雨と盛夏期における東西日本の降水の特徴に関する気候学（長崎と東京を例にする比較解析）
- A403 吉村 香（新潟地方気象台） 北陸地方における冬の雷日数の増加傾向について
- A404 川瀬 宏明（気象研） 中部山岳域で観測された2015/16年冬季の顕著な少雪の再現実験と要因分析
- A405 谷貝 勇（元気象大） 地球温暖化が影響する日本の冷夏と暑夏について（その9）—日本列島で増大する強い積雲対流活動について—

気象教育

座長：内山 常雄（気象予報士会）

- A406 内山 常雄（気象予報士会） 高層気温推移にみる気候変動
- A407 奥村 政佳（横浜国大） SORAKIDS 構想の実現に向けて～幼児教育・防災情報統合システムへの展開～
- A408 中島 健介（九大・理） コリオリ力を「体感」できる実験
- A409 関 隆則（気象予報士会） 光音響効果を用いた温室効果実験装置（その2）

大会第4日〔5月28日(日)〕 9:30~11:30 一般口頭発表

B 会場

降水システムⅢ

座長：渡邊 俊一（東大・大気海洋研）

- B401 渡邊 俊一（東大・大気海洋研） 日本海寒帯気団収束帯（JPCZ）の理想化実験:Part I JPCZ の形成と構造
- B402 荒木 健太郎（気象研） 2016年11月24日関東降雪の発生環境場
- B403 吉崎 正憲（地球環境科学部環境システム学科） 波動の分散関係は共振（1）?!
- B404 二宮 洸三（無所属） 1982年7月23-24日の九州豪雨の環境場についての観測データと再解析データの比較
- B405 玉置 雄大（北大院理） 夏季九州における力学的ダウンスケーリングの強降水継続時間のバイアスとそれに関連する総観場
- B406 加藤 輝之（気象研） 平成28年台風第16号にともなう宮崎県北部での大雨について
- B407 重 尚一（京都大院・理） レーダ反射強度の鉛直構造から見た熱帯と中緯度における層状性降水過程の違い
- B408 小司 禎教（気象研） GNSSによる水蒸気の非一様性の度合いの推定と短時間強雨の関係について
- B409 横山 千恵（東大大気海洋研） GPM DPR 潜熱加熱スペクトル推定のための中緯度参照テーブルの作成：気象庁 LFM データの解析

大会第4日〔5月28日(日)〕 9:30~11:30 専門分科会

C 会場

福島第一原子力発電所からの放射性物質の拡散の実態と影響—事故後6年を経過して—

趣旨説明

座長：滝川 雅之 (JAMSTEC)

- C401 渡邊 明 (福島大・理工) 放射性物質の大気拡散に関する福島の教訓と課題
- C402 鶴田 治雄 (RESTEC) 福島原発事故直後における大気環境常時測定局のテープろ紙中の放射性核種分析データから明らかになったこと
- C403 森野 悠 (国環研) 大気モデル相互比較に基づく福島原発事故起源の¹³⁷Csの動態解析
- C404 岩崎 俊樹 (東北大学院理) 数値モデルによる移流拡散予測の相互比較実験
- C405 寺田 宏明 (原子力機構) 福島第一原子力発電所事故の放出量推定と被ばく評価における大気拡散シミュレーションの活用
- C406 関山 剛 (気象研) AMeDASおよびNTTドコモ地上風観測値のデータ同化が移流拡散シミュレーションの再現性に与える影響
- C407 眞田 幸尚 (原子力機構) 福島第一原子力発電所事故による放射性セシウムの沈着過程の推定—航空機モニタリングと大気拡散シミュレーションの比較—
- C408 新添 多聞 (原規庁) 航空機モニタリングデータを用いたセシウム137放出の時間変動の検討
- C409 近藤 裕昭 (産総研・JWA) 観測データとモデルの不一致から推定されるさらなる発生量の補正の可能性について

総合討論

1件あたりの持ち時間は12分

大会第4日〔5月28日(日)〕 9:30~11:30 専門分科会

D 会場

新世代静止気象衛星ひまわり8号がもたらす新しい気象学

座長：岩淵 弘信（東北大院理）

- D401 村田 英彦 (JMA/MSC) ひまわり8号「トゥルーカラー再現画像」
- D402 志水 菊広 (JMA) 静止気象衛星ひまわり8号によるRGB合成画像
- D403 濱田 篤 (東大 AORI) 静止衛星高頻度観測を用いた積雲鉛直流の推定
- D404 山下 浩史 (JMANPD) 気象衛星ひまわり8号から算出される台風領域の高頻度大気追跡風の検証と気象庁現業全球数値予報システムを使ったデータ同化実験

休憩

座長：岡本 幸三（気象研）

- D405 計盛 正博 (気象庁数値予報) 気象庁の現業数値予報システムでのひまわり8号晴天放射輝度温度の利用
- D406 上清 直隆 (気象研) ひまわり8号雲域観測の全球データ同化
- D407 岡本 幸三 (気象研) ひまわり8号の赤外輝度温度同化
- D408 澤田 洋平 (理研計算科学) ひまわり8号輝度温度データの同化による局地的大雨の再現性向上の試み
- D409 本田 匠 (理研計算科学) ひまわり8号輝度温度観測のデータ同化研究：平成27年9月関東・東北豪雨事例(第2報)

1件あたりの持ち時間は12分

大会第4日〔5月28日(日)〕 13:30~17:00 一般口頭発表

B 会場

中層大気

座長：富川 喜弘（極地研）

- B451 久保川 陽呂鎮 (AORI) 山岳が熱帯対流圏界面近傍の気温変動に与える影響に関する研究
- B452 富川 喜弘 (極地研) 南極昭和基地におけるオゾン・水蒸気ゾンデ集中観測 (速報)
- B453 南原 優一 (東大院理) 2016年4月に PANSY レーダーで観測された対流圏から下部成層圏を貫く強い波状擾乱に関する事例解析
- B454 佐藤 薫 (東大院理) PANSY レーダー観測に基づく夏季中間圏極域の風の周波数スペクトルと鉛直プロファイルの研究
- B455 中島 駿 (東大院理) 成層圏界面ジャンプを伴う成層圏突然昇温に起因する季節間半球間結合
- B456 小新 大 (東大院理) 中間圏を含むデータ同化のパラメータ依存性
- B457 安井 良輔 (東大院理) 中間圏および下部熱圏における潮汐波に伴うシア不安定の発生

座長：原田 やよい (気象研)

- B458 木下 武也 (JAMSTEC) 渦位 flux および非断熱加熱率とバランスする3次元残差流の考察
- B459 原田 やよい (MRI) JRA-55 の北半球冬季成層圏における惑星規模波動の表現性能の検証
- B460 野口 峻佑 (気象研) 再解析における衛星観測の重要性の再認識 —従来型観測限定同化版再解析における2002年9月の南半球成層圏突然昇温の再現性—
- B461 向川 均 (京大・防災研) 2007年3月に生じた成層圏惑星規模波下方伝播イベントの力学と予測可能性
- B462 加藤 諒一 (九大院・理) 2016年のQBO異常に伴う力学場と大気微量成分の変動
- B463 直江 寛明 (気象研) CCM1 シナリオにおけるオゾン QBO の将来変化

大会第4日〔5月28日(日)〕 13:30~17:00 専門分科会

C 会場

2015年と2016年の台風

趣旨説明

座長：伊藤 耕介（琉球大）

- C451 †福田 純也（気象庁予報課） 2015年と2016年の台風について
- C452 中野 満寿男（JAMSTEC） 2015年3月のサイクロンPamの発生について：海面水温偏差によるMJOと大規模循環場の変調
- C453 山田 洋平（JAMSTEC） エルニーニョ終息年（1998・2016）台風シーズンのアンサンブル再現実験
- C454 足立 透（気象研） フェーズドアレイレーダーで観測された台風第1609号に伴う境界層の気流構造
- C455 小山 亮（気象研） T1610（Lionrock）にみられた短時間スケールの強度変化
- C456 嶋田 宇大（気象研） 2016年台風第18号の眼の壁雲交換に伴う構造変化プロセス

休憩

座長：中野 満寿男（JAMSTEC）

- C457 †前田 修平（気象研気候） 2016年8月の循環場の極端な偏差
- C458 †山田 朋人（北海道大学） 2016年8月に北海道各地で発生した豪雨災害と気候変動の影響を考慮した治水計画の検討
- C459 筆保 弘徳（横浜国大） 台風発生スコアを用いた2016年台風発生環境場の検出
- C460 久保田 尚之（東大大気海洋研） 2016年8月の台風環境場と1950年8月の事例との比較
- C461 神野 拓哉（東大理） 2016年8月のモンスーンジャイアに対する小笠原高気圧の影響
- C462 山田 広幸（琉球大理） 2016年8月に出現した「モンスーン渦」の特徴

討論：いわゆる「モンスーン渦」について

†は招待講演，1件あたりの持ち時間は15分

大会第4日〔5月28日(日)〕 13:30~17:00 専門分科会

D 会場

偏波レーダーを用いた観測解析技術と利用法の展開

趣旨説明

座長：前坂 剛（防災科研）

- D451 前坂 剛（防災科研） 国土交通省 XRAIN における KDP を用いた降雨強度推定について
- D452 板戸 昌子（気象協会） XRAIN を用いた冬期降水量推定精度向上に向けた取り組み
- D453 耿 驃（JAMSTEC） 雨の中で観測された偏波間位相差における波長の長いノイズの自動検出
- D454 小林 隆久（電中研） Mixed phase 観測における偏波レーダーのポテンシャル：Attenuation
- D455 若月 泰孝（茨城大） 偏波レーダパラメータを用いた雨滴粒径分布の推定
- D456 額 纈 丈晴（名大宇地研） Xバンド偏波レーダー用降水粒子判別法の夏季雷雲への適用
- D457 長屋 智大（名大 ISEE） Ka・X・C 帯二重偏波レーダーの偏波パラメータと HYVIS による直接観測の比較
- D458 真木 雅之（鹿児島大学） 火山噴煙の三次元レーダデータ解析ツール（ANT3D）の概要
- D459 Kim YuRa (Pukyong National University) ANALYSIS OF VOLCANIC ASH CLOUDS UNDER MOIST ENVIRONMENT USING ANT3D

休憩(10分)

座長：増田 有俊（気象協会）

- D460 増田 有俊（気象協会） X バンド偏波レーダによる粒子判別結果を用いた降水セルのライフステージ判別
- D461 篠田 太郎（名大宇地研） 東海地方で観測された対流性降水域内部の霰領域と強い上昇気流域の分布
- D462 南雲 信宏（気象研） 凍雨の二重偏波情報と力学構造の特徴—2016年1月29日の事例—
- D463 中北 英一（京大防災研） 偏波レーダーを主としたマルチセンサーによる積乱雲の生成と発達を捉えるフィールド観測
- D464 山口 弘誠（京大防災研） 偏波レーダーを用いたアンサンブルデータ同化による降水予測精度向上に関する研究
- D465 横田 祥（気象研） 降水が予測されていない位置へのレーダー反射強度の同化方法の提案
- D466 梶原 佑介（気象庁観測） 空港気象ドップラーレーダーの二重偏波化
- D467 高橋 暢宏（ISEE） 「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP） レジリエントな防災・減災機能の強化」におけるマルチパラメータフェーズドアレイ気象レーダの開発について

総合討論

1件あたりの持ち時間は11分

大会第1日〔5月25日(木)〕 11:30~12:30 ポスター・セッション

- P101 花土 弘 (NICT) GPM/DPR(全球降水観測計画主衛星搭載二周波降水レーダ)降水判定フラグの改良
- P102 妻鹿 友昭 (阪大工) GSMaP 雨量計補正降水マップ(GSMaP Gauge)におけるアルゴリズム変更の影響
- P103 大石 哲 (神戸大) GPS を用いた大阪湾周辺における水蒸気流入に関する研究
- P104 中島 大岳 (古野電気) 小型 X バンド二重偏波気象レーダーの降雨観測精度検証
- P105 磯田 総子 (NICT) フェーズドアレイ気象レーダーのデータ品質管理～地表面クラッタの時間変化～
- P106 橋口 浩之 (京大生存研) 大気成層構造の小型無人航空機・MU レーダー同時観測
- P107 瀬古 弘 (気象研) 高頻度高密度地上観測である首都圏地震観測網の気象データの同化実験 (1)
- P108 末木 健太 (東大大気海洋研) Large Eddy Simulation によるスーパーセルのエントレインメント率の推定
- P109 橋本 明弘 (気象研) JMA-NHM 降雪種再現性の評価
- P110 滋野 陽介 (新潟大院) 北陸地域の冬季雷発生時における総観場の特徴
- P111 武村 一史 (京大院理) 重合格子法を用いた非静力学モデルへの保存性補間法の実装
- P112 岡崎 淳史 (理研計算科学) 高密度降水レーダ反射強度の観測システムシミュレーション実験
- P113 大泉 伝 (JAMSTEC) スーパーコンピュータ「京」を用いた豪雨の高解像度アンサンブル実験
- P114 北畠 尚子 (気象大) 2016年8月末の北日本の大雨に関連した低気圧と高気圧の強度変化
- P115 柴田 清孝 (KUT) 高知県の過去の雨量解析におけるデータ比較検証
- P116 野原 大輔 (電中研) メソアンサンブル予測を用いた風力発電出力急変事象(ランプ現象)予測の不確実性評価
- P117 Yovita Wangsaputra (東工大院) Numerical Simulation of Urban Boundary Layer over Flat and Realistic Topography
- P118 板倉 拓哉 (理科大) 熱環境・生理量の同時測定による温熱感覚決定要因の調査
- P119 平泉 浩一 (JWA) 熱中症患者数に関する予測情報の発表について
- P120 田中 実 (なし) 北半球の大陸東岸で冬から春に降水量の年変化の極大を観測する雨季
- P121 永田 玲奈 (帝京大) 日本の日降水量データを用いた 20 世紀における台風経路の復元
- P122 野坂 真也 (MRI) 海面水温変更による地域気候モデルの再現性の変化
- P123 保坂 征宏 (気象研) 大気モデルの地球システムモデル対応について—プログラム開発の視点から—
- P124 西 憲敬 (福岡大理) ITCZ 領域にみられる帯状雲域の変形過程
- P125 那須野 智江 (JAMSTEC) 全球非静力学モデルを用いた CINDY2011/DYNAMO 期間の水蒸気・熱収支解析
- P126 高須賀 大輔 (東大大気海洋研) 全球水惑星実験で選択される季節内振動の発生機構
- P127 久保川 陽呂鎮 (東大大気海洋研) ストレッチ版大気海洋結合モデルにおける大気海洋相互作用の研究
- P128 清水 厚 (環境研) ライダーにより検出された黄砂現象の中長期的な変動
- P129 深堀 正志 (気象大) 天空光の直線偏光度とオングストローム指数の関係
- P130 稲津 将 (北大院理) パーシステント・ホモロジーによる低気圧・前線トラッキング

大会第2日〔5月26日(金)〕 11:30~12:30 ポスター・セッション

- P201 島田 正樹(空自) 人工降雨の手法を用いた降水量軽減シミュレーション
- P202 島田 正樹(空自) WPRを用いた乱気流予測と航空機運航への活用
- P203 小司 禎教(気象研) 船舶搭載 GNSSによる可降水量解析—反射波影響除去の重要性—
- P204 佐野 哲也(NICT) MP-Xの観測データを用いたHB法によるPAWR観測の降雨減衰補正
- P205 岩崎 博之(群馬大教育) GPM Ku帯レーダーとモンゴル空港レーダーで得られたエコー強度の比較
- P206 工藤 玲(気象研) グライダー搭載 OPCによるエアロゾル鉛直分布の地上リモートセンシング手法の検証
- P207 久慈 誠(奈良女子大) 船舶観測データ解析による雲の研究
- P208 平沢 尚彦(極地研) 南極氷床を拠点とした夏季45日間の観測—第58次南極観測夏隊大気・雪氷チームの報告—
- P209 吉住 蓉子(九大院理) ビデオゾンデ観測データを用いた雲物理スキームの精度評価
- P210 大東 忠保(名大宇地研) Ka帯レーダーを用いた台風1618号(Chaba)の上層雲の観測
- P211 大塚 道子(気象研) ひまわり8号雲水量同化に向けたデータ特性調査
- P212 近藤 圭一(理研計算科学) NICAM-LETKFを用いたマルチスケールデータ同化
- P213 金子 凌(水理研) WRFを用いた平成28年度6月20日からの熊本豪雨の再現実験
- P214 林 修吾(気象研) モデル高解像度化による夏季不安定性降水の再現性の調査
- P215 野澤 千菜美(酪農大院) 降水分布を考慮した石狩川流域における出水の再現
- P216 谷田貝 亜紀代(弘前大理工) ヒマラヤ山岳域のlandslide災害への局地的降水影響の評価(続報)
- P217 鈴木 智恵子(JAMSTEC) 領域気象モデルによる夏季の再現実験に対する土壌水分と人工排熱の影響
- P218 河野 恭佑(千葉工大) 東京都市街地におけるWBGT移動観測
- P219 山森 賢也(東理大) 先進技術を用いた暑熱対策設備の効果検証
- P220 増田 南波(弘前大) 日本における日降水グリッドデータの風による捕捉損失の補正
- P221 村上 茂教(気象大) 偏西風ジェットの出現位置の経年変化と運動量・エネルギー輸送との関係
- P222 小林 大輝(JMA) 山岳波の初期値問題の解析解
- P223 飯田 大晴(富山大・理) 熱帯域東インド洋における地域による水蒸気変動特性の違い
- P224 中山 尋斗(学芸大) 西部北太平洋暖水域における水温勾配と台風発達との関係
- P225 吉田 聡(JAMSTEC) 北太平洋の爆弾低気圧が海洋深層に及ぼす影響
- P226 山下 晃平(東工大) WRF-Fireによる火災延焼シミュレーション
- P227 財前 祐二(気象研) エアロゾルの吸湿膨張による視程低下
- P228 関根 広貴(東理大) 南関東における大気エアロゾルの湿度特性
- P229 玉井 健太郎(横浜国大) 北海道地方の爆弾低気圧ノモグラム
- P230 山口 純平(東北大院理) 2016年1月の東アジアにおける寒気の形成と流出
- P231 柴田 清孝(KUT) 化学-気候モデルの上部成層圏・中間圏の鉛直解像度増加が及ぼす影響: 熱帯成層圏半年振動
- P232 永野 良紀(日大・文理) 東北地方部における風速の急変動現象気学的要因
- P233 築地原 匠(九大院・理) 近年の北海道地方の暴風雪の頻発と爆弾低気圧活動
- P234 遠藤 あずさ(筑波大学地球科学専攻) 線形傾圧モデルを用いたSAMの地形依存性の解明

大会第3日〔5月27日(土)〕 11:30~12:30 ポスター・セッション

- P301 古澤 文江 (ISEE) 衛星観測データを用いた降水プロダクト間の比較 II
- P302 余郷 友祐 (気象大) ひまわり 8号のデータを用いた積雪域識別の高精度化
- P303 山内 晃 (長大院水産環境) CloudSat-CALIPSO 併用データを用いたユーラシア大陸広域の雲層内氷相割合の変化について
- P304 大石 哲 (神戸大) 短時間降雨予測精度向上のための近距離レーダーネットワークを用いた三次元風速場解析に関する研究
- P305 梅原 章仁 (気象庁) 二重偏波 DRAW による降水強度推定・種別判別技術の開発
- P306 中島 健 (理科大) 可搬型 MRT 計測に向けた Globe anemo-radiometer のパラメータ同定手法の検討
- P307 神 慶孝 (環境研) 水雲の偏光解消度と有効ライダー比を用いたシーロメーター/ライダー信号の校正手法
- P308 加瀬 紘熙 (筆保研究室) 黒い百葉箱と白い百葉箱の温度差 ～百葉箱が白でなければならない理由～
- P309 横矢 成美 (山口大院) 降水粒子地上直接観測による融解層内の鉛直構造の考察
- P310 岩崎 杉紀 (防大地球) 積乱雲の雲頂から飛び上がる雲の撮影
- P311 山田 芳則 (気象研) 気象庁非静力学モデルによる雨氷やみぞれの予測可能性
- P312 小田 真祐子 (気象研) 全球モデル用アンサンブルに基づく変分法同化法のための相関構造の調査
- P313 新堀 敏基 (気象研) 2016年阿蘇山爆発的噴火に伴う降灰予報の検証
- P314 渡邊 俊一 (東大・大気海洋研) 日本海寒帯気団収束帯 (JPCZ) の理想化実験:Part II 渦状擾乱の形成過程
- P315 紀平 旭範 (富山大) 冬季日本海における日本海寒帯気団収束帯に関する研究
- P316 藤部 文昭 (首都大・都市環境) 数分～数十分スケールの地上気温変動の気候学的特性
- P317 渡邊 武志 (東海大 TRIC) エネルギー需要予測モデルのための入力気象データに関する検討
- P318 中村 祐輔 (立正大院) 関東平野内陸部における大気境界層高度のドップラーライダー観測
- P319 菊池 悠馬 (理科大) 都市オアシスの暑熱緩和効果に関する実験的検討
- P320 福田 崇文 (KU) 四国における降雪分布の地域特性に関する解析
- P321 渡来 靖 (立正大・地球環境科学) JRA-55 で見られるジェット気流の長期傾向
- P322 西原 佑亮 (九大・理) 西日本周辺域で報告された乱気流の発生環境場
- P323 加藤 咲 (福岡大理) 熱帯太平洋における大気中の IO ラジカルの時空間変動～MAX-DOAS 法による船上観測～
- P324 西本 秀祐 (気象大学校) 台風の上下一体性維持のメカニズム -Vortex Resiliency-
- P325 杉本 周作 (東北大学学際研) 日本東岸沖暖水渦が冬季大気場に及ぼす影響
- P326 日暮 明子 (NIES) ひまわり 8号観測によるエアロゾル解析
- P327 小野里 早苗 (気象大) 天空放射輝度偏光測定から推定されるエアロゾルの光学特性
- P328 佐藤 丈徳 (東理大) 東京スカイツリーで観測された新粒子生成
- P329 平田 英隆 (九大院理) 2017年1月上旬に発生した爆弾低気圧のメソスケール構造
- P330 中村 東奈 (富士通 FIP) 南米オゾン予測に向けたナudging気象場の検討
- P331 水瀬 正雄 (長岡市) 日本における気温の日別平滑年値の変化について
- P332 坂崎 貴俊 (ハワイ大 IPRC) 領域モデルを用いた地上気圧潮汐の支配プロセスの研究
- P333 野口 峻佑 (気象研) 北半球における極夜ジェット振動の海面水温偏差に対する応答

大会第4日〔5月28日(日)〕 11:30~12:30 ポスター・セッション

- P401 石崎 春花 (首都大・都市環境) 全国の AMeDAS 雨量と解析雨量の比率の空間分布に関する研究
- P402 松山 洋 (首都大・都市環境) JRA-55 と GPS による可降水量の比較
- P403 金田 康世 (首都大・都市環境) GPS 可降水量に着目した「平成 24 年 7 月九州北部豪雨」の事例解析
- P404 岩崎 杉紀 (防大地球) CPS 雲粒子ゾンデによって観測された mixed-phase cloud の特徴

講演者索引

< A >

Adachi Ahoro (足立 アホロ)	B105
Adachi Toru (足立 透)	C454
Aiki Hidenori (相木 秀則)	B157
Aoki Teruo (青木 輝夫)	D309
Aonashi Kazumasa (青梨 和正)	B102
Aonashi Kazumasa (青梨 和正)	C157
Araki Kentaro (荒木 健太郎)	B201
Araki Kentaro (荒木 健太郎)	B402
Awazu Taeka (粟津 妙華)	C206

< C >

Chiba Joutaro (千葉 丈太郎)	A304
------------------------	------

< D >

Doi Takeshi (土井 威志)	D157
---------------------	------

< E >

Endo Azusa (遠藤 あずさ)	P234
---------------------	------

< F >

Fudeyasu Hironori (筆保 弘徳)	C459
Fujibe Fumiaki (藤部 文昭)	C302
Fujibe Fumiaki (藤部 文昭)	P316
Fujishima Miho (藤島 美保)	A154
Fujiwara Keita (藤原 圭太)	A160
Fukabori Masashi (深堀 正志)	P129
Fukuda Junya (福田 純也)	C451
Fukuda Takafumi (福田 崇文)	P320
Furuzawa Fumie (古澤 文江)	P301

< G >

Geng Biao (耿 驃)	D453
-----------------	------

< H >

Hamada Atsushi (濱田 篤)	D403
Hanado Hiroshi (花土 弘)	B104
Hanado Hiroshi (花土 弘)	P101
Hara Tabito (原 旅人)	C103
Harada Yayoi (原田 やよい)	B459
Haruyama Akinori (春山 哲範)	A207
Hashiguchi Hiroyuki (橋口 浩之)	P106
Hashimoto Akihiro (橋本 明弘)	P109
Hattori Miki (服部 美紀)	A155
Hayashi Shugo (林 修吾)	P214
Hayashi Yuki (林 佑樹)	B162

Higurashi Akiko (日暮 明子)	P326
Hiraizumi Koichi (平泉 浩一)	P119
Hirasawa Naohiko (平沢 尚彦)	A105
Hirasawa Naohiko (平沢 尚彦)	P208
Hirata Hidetaka (平田 英隆)	P329
Honda Takumi (本田 匠)	D409
Horinouchi Takeshi (堀之内 武)	D162
Hosaka Masahiro (保坂 征宏)	P123

< I >

Iida Taisei (飯田 大晴)	P223
Imada Yukiko (今田 由紀子)	D159
Inagaki Atsushi (稲垣 厚至)	C307
Inatsu Masaru (稲津 將)	P130
Ishibashi Toshiyuki (石橋 俊之)	C151
Ishibashi Toshiyuki (石橋 俊之)	C163
Ishida Junichi (石田 純一)	C101
Ishidoya Shigeyuki (石戸谷 重之)	D208
Ishizaki Haruka (石崎 春花)	P401
Isoda Fusako (磯田 総子)	P105
Itado Atsuko (板戸 昌子)	D452
Itahashi Syuichi (板橋 秀一)	D201
Itakura Takuya (板倉 拓哉)	P118
Ito Junshi (伊藤 純至)	C201
Ito Kosuke (伊藤 耕介)	A161
Ito Kosuke (伊藤 耕介)	A162
Iwabuchi Hironobu (岩渕 弘信)	D306
Iwamoto Naohiro (岩本 尚大)	C156
Iwasaki Hiroyuki (岩崎 博之)	P205
Iwasaki Suginori (岩崎 杉紀)	P310
Iwasaki Suginori (岩崎 杉紀)	P404
Iwasaki Toshiki (岩崎 俊樹)	C404
Iwashita Hisato (岩下 久人)	B305

< J >

Jin Yoshitaka (神 慶孝)	P307
Jinno Takuya (神野 拓哉)	C461

< K >

Kai Kenji (甲斐 憲次)	D202
Kajiwara Yusuke (梶原 佑介)	D466
Kamae Youichi (釜江 陽一)	A305
Kamae Youichi (釜江 陽一)	D160
Kamahori Hirotaka (釜堀 弘隆)	A309
Kanaya Yugo (金谷 有剛)	D206
Kaneda Yasuyo (金田 康世)	P403

Kaneko Ryo (金子 凌)	P213
Kanno Yuki (菅野 湧貴)	A301
Kato Kuranoshin (加藤 内藏進)	A103
Kato Ryohei (加藤 亮平)	C205
Kato Ryoichi (加藤 諒一)	B462
Kato Saki (加藤 咲)	P323
Kato Teruyuki (加藤 輝之)	B406
Kawabata Takuya (川畑 拓矢)	C154
Kawabata Yasuhiro (川端 康弘)	C306
Kawai Hideaki (川合 秀明)	A205
Kase Koki (加瀬 紘熙)	P308
Kawamura Seiji (川村 誠治)	B152
Kawano Kyosuke (河野 恭佑)	P218
Kawano Tetsuya (川野 哲也)	A104
Kawase Hiroaki (川瀬 宏明)	A404
Kazumori Masahiro (計盛 正博)	D405
Kihira Akinori (紀平 旭範)	P315
Kikuchi Hiroshi (菊池 博史)	B106
Kikuchi Yuma (菊池 悠馬)	P319
Kim Yura (Kim YuRa)	D459
Kinsohita Takenari (木下 武也)	B458
Kitabatake Naoko (北畠 尚子)	P114
Kobayashi Chiaki (小林 ちあき)	D154
Kobayashi Hiroki (小林 大輝)	P222
Kobayashi Takahisa (小林 隆久)	D454
Kohyama Tsubasa (神山 翼)	A203
Kondo Hiroaki (近藤 裕昭)	C409
Kondo Keiichi (近藤 圭一)	C164
Kondo Keiichi (近藤 圭一)	P212
Koshin Dai (小新 大)	B456
Kotsuki Shunji (小槻 峻司)	C152
Kouketsu Takeharu (額瀨 丈晴)	D456
Kuba Naomi (久芳 奈遠美)	B208
Kubokawa Hiroyasu (久保川 陽呂鎮)	B451
Kubokawa Hiroyasu (久保川 陽呂鎮)	P127
Kubota Hisayuki (久保田 尚之)	A164
Kubota Hisayuki (久保田 尚之)	C460
Kubota Hohsuke (久保田 匡亮)	B153
Kudo Rei (工藤 玲)	P206
Kuji Makoto (久慈 誠)	P207
Kuo Tzuhsien (郭 子仙)	B204
Kurihara Kazuo (栗原 和夫)	A307
Kuroda Yuhji (黒田 友二)	A209

Kusunoki Kenichi (楠 研一)	B306	Nakayama Hiroto (中山 尋斗)	P224	Saitou Hitomi (齋藤 仁美)	D152
Kusunoki Shoji (楠 昌司)	A306	Nakazato Masahisa (中里 真久)	C207	Sakai Satoshi (酒井 敏)	C303
< L >		Nakazawa Tetsuo (中澤 哲夫)	C301	Sakazaki Takatoshi (坂崎 貴俊)	A152
Le Duc (レ デュック)	C165	Naoe Hiroaki (直江 寛明)	B463	Sakazaki Takatoshi (坂崎 貴俊)	P332
< M >		Nasuno Tomoe (那須野 智江)	P125	Sakurai Makoto (桜井 誠)	B160
Maeda Shuhei (前田 修平)	C457	Niisoe Tamon (新添 多聞)	C408	Sanada Yukihisa (真田 幸尚)	C407
Maeda Shuhei (前田 修平)	D151	Ninomiya Kozo (二宮 洸三)	B404	Sano Tetsuya (佐野 哲也)	P204
Maehiko Yasumitsu (前島 康光)	C158	Nishi Noriyuki (西 憲敬)	P124	Sasagawa Yutaka (笹川 悠)	C104
Maesaka Takeshi (前坂 剛)	D451	Nishida Keigo (西田 圭吾)	B151	Sato Eiichi (佐藤 英一)	B107
Maki Masayuki (真木 雅之)	D458	Nishihara Yusuke (西原 佑亮)	P322	Sato Kaoru (佐藤 薫)	B454
Mashiko Wataru (益子 渉)	B307	Nishii Kazuaki (西井 和晃)	D156	Sato Kazutoshi (佐藤 和敏)	C204
Masuda Aritoshi (増田 有俊)	D460	Nishikawa Yuki (西川 雄輝)	C203	Sato Naoki (佐藤 尚毅)	A102
Masuda Minami (増田 南波)	P220	Nishimoto Shusuke (西本 秀祐)	P324	Sato Takenori (佐藤 丈徳)	P328
Matsugishi Shuhei (松岸 修平)	A158	Noda Akira (野田 彰)	B158	Sato Yousuke (佐藤 陽祐)	B209
Matsui Hitoshi (松井 仁志)	D204	Noguchi Shunsuke (野口 峻佑)	B460	Satoh Reona (佐藤 令奈)	A101
Matsumoto Kengo (松本 健吾)	A402	Noguchi Shunsuke (野口 峻佑)	P333	Satoh Shinsuke (佐藤 晋介)	B103
Matsuyama Hiroshi (松山 洋)	P402	Nohara Daisuke (野原 大輔)	P116	Sawada Yohei (澤田 洋平)	D408
Mega Tomoaki (妻鹿 友昭)	P102	Nosaka Masaya (野坂 真也)	P122	Seki Takanori (関 隆則)	A409
Minamihara Yuichi (南原 優一)	B453	Nozawa Chinami (野澤 千菜美)	P215	Sekiguchi Miho (関口 美保)	D304
Minobe Shoshiro (見延 庄士郎)	D163	< O >		Sekine Hiroki (関根 広貴)	P228
Mizuse Masao (水瀬 正雄)	P331	Obata Atsushi (小畑 淳)	A202	Sekiya Takashi (関谷 高志)	D207
Mori Yuki (森 祐貴)	B302	Oda Mayuko (小田 真祐子)	P312	Sekiyama Tsuyoshi (関山 剛)	C406
Morino Yu (森野 悠)	C403	Ohashi Yuktaka (大橋 唯太)	C304	Seko Hiromu (瀬古 弘)	P107
Morioka Yushi (森岡 優志)	A208	Ohigashi Tadayasu (大東 忠保)	P210	Shibata Kiyotaka (柴田 清孝)	P115
Mukougawa Hitoshi (向川 均)	B461	Ohtake Hideaki (大竹 秀明)	C106	Shibata Kiyotaka (柴田 清孝)	P231
Murahashi Kuriki (村橋 究理基)	B165	Oishi Satoru (大石 哲)	P103	Shibuya Kazuki (澁谷 和樹)	B156
Murakami Shigenori (村上 茂教)	P221	Oishi Satoru (大石 哲)	P304	Shibuya Ryosuke (澁谷 亮輔)	B159
Muramatsu Takanari (村松 貴有)	C309	Oizumi Tsutao (大泉 伝)	P113	Shige Shoichi (重 尚一)	B407
Murata Akihiko (村田 昭彦)	A308	Okamoto Kozo (岡本 幸三)	D407	Shigeno Yosuke (滋野 陽介)	P110
Murata Hidehiko (村田 英彦)	D401	Okata Megumi (大方 めぐみ)	D305	Shimada Masaki (島田 正樹)	P201
Murayama Yasuhiro (村山 泰啓)	C107	Okazaki Atsushi (岡崎 淳史)	P112	Shimada Masaki (島田 正樹)	P202
< N >		Okazaki Shogo (岡崎 正悟)	B161	Shimada Udai (嶋田 宇大)	C456
Nagano Yoshinori (永野 良紀)	P232	Okumura Masayoshi (奥村 政佳)	A407	Shimbori Toshiki (新堀 敏基)	P313
Nagata Rena (永田 玲奈)	P121	Ono Marika (小野 茉莉花)	A153	Shimizu Akihiro (志水 菊広)	D402
Nagaya Tomohiro (長屋 智大)	D457	Onomura Shiho (小野村 史穂)	B304	Shimizu Atsushi (清水 厚)	P128
Nagumo Nobuhiro (南雲 信宏)	D462	Onosato Sanae (小野里 早苗)	P327	Shimizu Shingo (清水 慎吾)	C153
Nakai Sento (中井 専入)	B206	Orikasa Narihiro (折笠 成宏)	B203	Shinoda Taro (篠田 太郎)	B207
Nakajima Hirotaka (中島 大岳)	P104	Ose Tomoaki (尾瀬 智昭)	A303	Shinoda Taro (篠田 太郎)	D461
Nakajima Kensuke (中島 健介)	A206	Oshima Naga (大島 長)	D205	Shiogama Hideo (塩竈 秀夫)	D161
Nakajima Kensuke (中島 健介)	A408	Otsuka Michiko (大塚 道子)	P211	Shiotani Masato (塩谷 雅人)	D209
Nakajima Shun (中島 駿)	B455	Otsuka Shigenori (大塚 成徳)	C155	Shiozaki Masahiro (塩崎 公大)	D155
Nakakita Eiichi (中北 英一)	D463	Oyama Ryo (小山 亮)	C455	Shoji Yoshinori (小司 禎教)	B408
Nakamura Haruna (中村 東奈)	P330	< S >		Shoji Yoshinori (小司 禎教)	P203
Nakamura Yusuke (中村 祐輔)	P318	Saito Kazuo (齊藤 和雄)	C160	Sueki Kenta (末木 健太)	P108
Nakano Masuo (中野 満寿男)	C452	Saito Masanori (齊藤 雅典)	D307	Suematsu Tamaki (末松 環)	A157
Nakashima Takeshi (中島 健)	P306	Saito Masanori (齊藤 雅典)	D308	Sugimoto Shusaku (杉本 周作)	P325
				Sugiyama Toru (杉山 徹)	D103
				Suzuki Chieko (鈴木 智恵子)	P217

Suzuki Kazuyoshi (鈴木 和良) C166

< T >

Tajiri Takuya (田尻 拓也) B205
 Takagi Masahiro (高木 征弘) B163
 Takahashi Nobuhiro (高橋 暢宏) D467
 Takahashi Shusaku (高橋 周作) B308
 Takahashi Tsuneya (高橋 庸哉) B202
 Takasaki Yoshinori (高咲 良規) C308
 Takasuka Daisuke (高須賀 大輔) P126
 Takaya Yuhei (高谷 祐平) D153
 Takemi Tetsuya (竹見 哲也) D203
 Takemura Kazushi (武村 一史) P111
 Tamai Kentaro (玉井 健太郎) P229
 Tamaki Yuta (玉置 雄大) B405
 Tanaka Hiroharu (田中 博春) D101
 Tanaka Hiroharu (田中 博春) D105
 Tanaka Minoru (田中 実) P120
 Terada Hiroaki (寺田 宏明) C405
 Terao Toru (寺尾 徹) A151
 Terasaki Koji (寺崎 康児) C162
 Tochimoto Eigo (栃本 英伍) B301
 Toda Masaki (戸田 賢希) A204
 Tomikawa Yoshihiro (富川 喜弘) B452
 Tsukijihara Takumi (築地原 匠) P233
 Tsuruta Haruo (鶴田 治雄) C402
 Tsuyuki Tadashi (露木 義) C159

< U >

Uchiyama Akihiro (内山 明博) D301
 Uchiyama Akihiro (内山 明博) D302
 Uchiyama Tsuneco (内山 常雄) A406
 Ueda Hiroaki (植田 宏昭) D158
 Uekiyo Naotaka (上清 直隆) D406
 Ueno Kenichi (上野 健一) A302
 Umehara Akihito (梅原 章仁) P305
 Ushiyama Tomoki (牛山 朋來) C202
 Utsunomiya Kenji (宇都宮 健志) D303
 Uzuka Kazuo (宇塚 和夫) B101

< W >

Wakazuki Yasutaka (若月 泰孝) D104
 Wakazuki Yasutaka (若月 泰孝) D455
 Wangsaputra Yovita (Yovita Wangsaputra) P117
 Watanabe Akira (渡邊 明) C401
 Watanabe Shunichi (渡邊 俊一) B401
 Watanabe Shunichi (渡邊 俊一) P314
 Watanabe Takeshi (渡邊 武志) P317

Watarai Yasushi (渡来 靖) P321

Wu Peiming (伍 培明) A156

< Y >

Yagai Isamu (谷貝 勇) A405
 Yakeno Aiko (焼野 藍子) D102
 Yamada Hiroyuki (山田 広幸) C462
 Yamada Tomohito (山田 朋人) C458
 Yamada Yohei (山田 洋平) C453
 Yamada Yoshinori (山田 芳則) B154
 Yamada Yoshinori (山田 芳則) P311
 Yamaguchi Junpei (山口 純平) P230
 Yamaguchi Kosei (山口 弘誠) D464
 Yamaguchi Munchiko (山口 宗彦) A163
 Yamamori Kenya (山森 賢也) P219
 Yamamoto Akira (山本 哲) C305
 Yamamoto Haruhiko (山本 晴彦) A401
 Yamamoto Masaru (山本 勝) B164
 Yamamoto Yuhei (山本 雄平) B155
 Yamashita Kohei (山下 晃平) P226
 Yamashita Koji (山下 浩史) D404
 Yamauchi Akira (山内 晃) P303
 Yamazaki Akira (山崎 哲) C161
 Yanase Wataru (柳瀬 亘) A159
 Yasui Ryosuke (安井 良輔) B457
 Yatagai Akiyo (谷田貝 亜紀代) C105
 Yatagai Akiyo (谷田貝 亜紀代) P216
 Yogo Yusuke (余郷 友祐) P302
 Yokohata Tokuta (横島 徳太) A201
 Yokota Sho (横田 祥) D465
 Yokoya Narumi (横矢 成美) P309
 Yokoyama Chie (横山 千恵) B409
 Yonehara Hitoshi (米原 仁) C102
 Yoshida Akira (吉田 聡) P225
 Yoshimura Kaori (吉村 香) A403
 Yoshizaki Masanori (吉崎 正憲) B403
 Yoshizumi Youko (吉住 蓉子) P209
 Yuasa Soichiro (湯浅 惣一郎) B303

< Z >

Zaizen Yuji (財前 祐二) P227